

徳川慶喜の明治維新

近代史研究家
鈴木 木 荘 一

- * 井伊大老が日米通商条約を無勅許で調印した
- * 幕府は、先進国と同等の高率関税20%を獲得した
- * 長州藩が下関戦争に負けて、関税率が5%に
- * 建国時の米国の財政を支えたのは関税収入
- * 勅許を獲得した徳川慶喜の行動力
- * 軍制改革を行って陸軍を創設
- * 兵庫開港でみせた抜群の弁論能力
- * 最大の課題、大政奉還を巡る経緯
- * 五箇条の御誓文は大政奉還上表文を継承した
- * 慶喜が戦わずに降伏した理由



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日から人数制限を解きまして、ご自由においでいただくということになっております。少しでも正常な日常に戻りますように、これからもよろしくお願いいたします。

本日は、鈴木荘一さんにおいでいただきました。鈴木荘一さんは1948年のお生まれで、東京大学経済学部を卒業後、日本興業銀行に入られ産業調査等をされた方でございます。その後、若い頃からたいへんご興味のあった日本の近代史について独自の研究をされ、入口のところにもございますが、幾つもご著書がございます。ここでも何人かの方に歴史の見直しのようなお話をしていただきましたが、今日もちょうどNHKの大河が渋沢栄一で、徳川慶喜の再評

価がどうも進んでいるようでして、今日は明治維新と徳川慶喜について興味深いお話をさせていただけるということでございます。ぜひ楽しみにお聞きいただきたいと思います。

それでは鈴木さん、よろしくお願いたします。（拍手）

井伊大老が日米通商条約を 無勅許で調印した

鈴木 鈴木荘一でございます。よろしくお願いたします。それでは、「徳川慶喜の明治維新」ということでお話をしたいと思います。

明治維新につきましてはいろんな人が論じておられます。ただ文学部ご出身の方が多いです。あと法学部ご出身の方もおられます。文学部ご